

創作ダンスの楽しさを知った 体研での思い出

田中まゆみ（教育・平成2年卒・坂出市立東部小学校）

5月1日、新しい「令和」時代がスタートしました。私は、平成元年度に香川大学を卒業したので、早くも卒業してから30年が過ぎたことになります。それは、教員になってから30年目という節目の年を迎えたことにもなります。

私たちが教員になった頃は、教員の採用数が年々少なくなり、自分より下の若い教員がなかなか入って来ませんでした。ですから、20年近くも「若手」と呼ばれ、先輩の先生方の指導の下、率先して動いてきました。研究授業や運動会のダンスは、「若手」がするものだと言われ、当たり前のようにしてきました。

しかし、ここ数年で、頼りにしていた先輩の先生方が大量に退職され、その代わりに、若い先生方がどんどん採用されてきました。私たちは「若手」から一気に「ベテラン教員」と呼ばれ、頼られる存在になりました。いつの間にか職員番号も一桁の始めに…。

30年たった今でも、気持ちはいつまでも大学を卒業したばかりの頃と変わらず、若々しいつもりです。しかし、年齢と共に、体の衰えを感じるこの頃です。小さい字が見えにくくなったり、物覚えが悪くなったり、肩や首・足腰が痛くなったりと、若い頃のような無理が利かない年齢になってきたことを実感しています。

最近、5月に運動会を行う学校が多くなってきました。私が勤務する学校も毎年5月に実施しています。年度が変わる4月には、今年の運動会のダンスは、どの曲を使って、どんな表現にしようかなと、毎年考え始めます。教員になって30年目の今年も同じでした。もう「若手」ではない今の私にとって、暑い中、体を動かすことは苦しいです。しかし、厳しい中でも、運動会は好きです。そして、ダンスを創作することも大好きなのです。

こんな私に、創作ダンスの楽しさを教えてくれたのは、香川大学の体育研究室の仲間でした。平成元年度体研卒の私たちは、バドミントン部、バスケ部、バレエ部、サッカー部、ハンド部、野球部、陸上部、体操部、柔道部、剣道部など…それぞれの運動部に所属するアスリートたちでした。私たちは、体を動かすことは好きだけど、ダンスの経験は、ほとんどありませんでした。

そんな私たちでしたが、仲間の一人が、岸先生から「全国創作舞踊研究発表会」の話聞き、参加しようと声をかけてくれました。それぞれの部活の練習の合間をぬって、有志が集まり、アイデアを出し合って創作し、忙しい中でも楽しく練習したことを覚えています。ダンスは素人の私たちだったので、踊りは決して上手ではなかったと思います。しかし、岸先生や審査員の先生方から「伝えたいことがよく分かった。それが表現できていた。」と褒めてもらい、自信につながりました。また、スポットライトを浴びて、みんなの前で踊る楽しさを知り、またやりたくなりました。（下の写真は、私が大学2年の時に、初めて発表会に参加した時のものです。同期の仲間が写真を提供してくれました。）

この時から、毎年のように、ダンス発表会に出場し、踊るようになりました。表現したいテーマを決め、大学の講堂や中央公園のステージでも踊ったことを覚えています。ダンス仲間は、どんどん増えていきました。私たちの担任であった山神先生や体研の後輩たちも参加してくれました。

今でも年に1回は同窓会を行い、みんなで集まっている仲の良い学年です。創作ダンスを通して、より絆が深まったことは、間違いありません。

伝えたいこと、表現したいことがあれば、踊りは下手でもいいのです。体いっぱいを使って、まずは自分が楽しみながら表現することが大切です。「令和」時代も創作ダンスの楽しさを、私なりに、子どもたちや若い先生に伝えていきたいと思っています。



第七回全国創作舞踊研究発表会 S.62.12.19 於神奈川県立青少年センター